

手頃な値段で必要な期間だけ入れるミニ保険（少額短期保険）が人気を集めている。新型コロナウイルスに感染したときに保険金が出る「コロナ保険」は加入が殺到し、日本中が猛暑にあえいだ今夏は「熱中症保険」が話題を呼んだ。なかには「ストーカー保険」や「お天気保険」なるものも。斬新な商品が次々現れる、ミニ保険の世界に迫る！

無限に広がる「ミニ保険」の世界



ストーカー保険にお天気保険まで

大学で講義をした時のこと。「若者が抱えるリスク」のテーマで意見を募ると、「今、彼氏ともめていて、ストーカー被害を心配している」という悩みが挙がった。警察庁の調べでは、日本では年間約2万件のストーカー事案が起きている。そこで月500円で加入できる保険を開発。被害を受けた場合、防犯カメラや補助錠の購入費、ホテル宿泊費、引っ越し費用などを補償する。警

ストーカー対策の保険である。あそしあ少額短期保険の「and ME」という商品だ。きっかけは一人の女子学生の声だった。同社が都内の

同社が販売する、結婚式のキャンセル費用を補償する保険「佳き日のために」も加入者を増やしている。式の相場は300万～400万円。保険料3万6千円で上限500万円まで補償するプランが好評だ。開発のきっかけは、東日本大震災で多くの挙式が中止になったこと。コロナの感染者が増えている時期や、台風シーズンに問い合わせが多くなるという。

結婚式の中止も保険で備える

備会社とも提携し、ガードマンの駆けつけサービスやGPS搭載の防犯端末の利用料も対象だ。被保険者は10～60代で、男性も1割程度いる。最近ではストーカーの被害に遭いやすい地下アイドルやユーチューバーの間でも口コミで人気が広がっているという。

ミニ保険は「かゆいところに手が届く」商品が多い。同社の小市大輔さんは「損害保険会社と比べて売り上げ規模が小さいため、ニッチなニーズに応える商品に挑戦しやすいんです」と話す。

ミニ保険は2006年の保険業法の改正によって生まれた新しい業態。「保険金の上限額1千万円以内、保険期間2年以内」と規定され、当初は52社が扱っていたが、今や116社にのぼる。急成長を後押ししているのは、参入ハードルの低さだ。通常の保険会社を設立する場合、最低10億円の資本金を集めなければならず、金融庁長官の免許が必要。一方、ミニ保険を扱う「少額短期保険業者」も関係当局の審査はあるが、資本金は1千万円あればよい。

写真はGetty Images。結婚式のキャンセルや職場のトラブル、ストーカー対策にミニ保険が活用できるかも